

## 高井病院歯科口腔外科開設後5年間における 新患患者の臨床的観察

医療法人高清会高井病院歯科口腔外科

\*奈良県立医科大学口腔外科学教室

\*大儀和彦, 山中康嗣, 関東里衣,  
\*今井裕一郎, \*河野太郎, \*岸宗弘,  
\*黒瀬尚利, 植村和嘉, \*桐田忠昭

### CLINICAL OBSERVATION OF PATIENTS AT DEPARTMENT OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY, TAKAI HOSPITAL DURING THE FIRST FIVE YEARS

\*KAZUHIKO OHGI, YASUTSUGU YAMANAKA,  
RIE KANTOU, \*YUICHIRO IMAI, \*TARO KONO,  
\*MUNEHIRO KISHI, \*NAOTOSHI KUROSE,  
KAZUYOSHI UEMURA and \*TADAAKI KIRITA

*Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Takai Hospital*

\* *Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University*

Received February 14, 2003

*Abstract* : Clinical observations were performed during the first 5 years (1996.7-2001.7) of new patients at the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Takai Hospital. The following results were obtained.

1. The total number of new patients was 4,080. The male-female ratio was 1:1. Many of the patients were in their 20s. The youngest patient was 6 months old and the oldest patient was 100 years old.
2. The yearly average number of new patients was 780. 1,844 patients (45.2%) had diseases associated with oral and maxillofacial surgery, and 2,236 patients (54.8%) were dentistry.
3. More than 75% of the patients resided in Nara City, Tenri City, and Yamatokoriyama City.
4. 974 patients (69.7%) who had diseases associated with oral and maxillofacial surgery were referred from dental offices, within the hospital and other hospitals. The number of patients introduced to our hospital year by year.
5. 1,118 patients (27.4%) were medically compromised patients, and these patients were almost all more than 60 years old. Of medically compromised patients, hyper tension was found in 510 patients (36.9%).
6. The number of inpatients who underwent an operation in the central room was 272 cases, and mainly resulting from maxillofacial trauma. The number of in out patients

was 967 cases, and most of them receiving extraction of impacted third molar.

**Key words:** oral and maxillofacial surgery, clinical observation, first five years

**緒 言**

高井病院は天理市の北部に位置し、奈良市と大和郡山市と隣接しており、また名阪国道や西名阪高速自動車道路が近接しているため、交通事故等の外傷患者が多い傾向にある。現在の病床数は207床で11診療科を有する救急指定病院である。

歯科口腔外科は顎顔面外傷を始め、他の口腔外科疾患および有病者歯科診療を担当し、主として近隣の開業歯科医院の紹介患者の受け皿となるべく、1996年7月17日に開設された。今回我々は、当科開設以来5年間に受診した口腔外科的疾患および一般歯科の疾患(有病者歯科を含む)患者について臨床的観察を行ったので、その概要を報告する。

**対 象**

1996年7月17日から2001年7月16日までの5年間に、当科を受診した新患患者4,080例を対象として、性別、年齢別、年度別、疾患別(口腔外科的疾患と一般歯科の疾患)、地域別、来院経路および紹介医療機関の内訳、有病者の疾患別割合について分析を行った。また、口腔外科的疾患においては、外来小手術を含む手術症例1,239例

についても検討した。

**結 果**

1. 性別および年齢別症例

性別では男性2,044例(50.1%)、女性2,036例(49.9%)で男女比はほぼ1:1であった。

年齢別において最小年齢は6か月、最高年齢は100歳であった。また、各年齢においては20歳代が805例(19.7%)と最も多く、ついで50歳代が573例(14.0%)、60歳代が545例(13.3%)と続き、90歳以上が23例(0.6%)と最も少なかった(Fig.1)。

2. 年度別および疾患別症例

年度別では各年度において、新患患者数は780例前後で推移していたが、2000年は865例と急増し、2001年においても約6か月で454例と増加傾向であった。

疾患別では全体で口腔外科的疾患が1,844例(45.2%)、一般歯科的疾患が2,236(54.8%)で若干一般歯科的疾患の方が多かった。疾患別の推移では、わずかではあるが口腔外科的疾患が年々増加傾向にあり、2000年は口腔外科的疾患431例と一般歯科的疾患434例とほぼ同数であった(Fig.2)。

3. 年齢別および疾患別症例

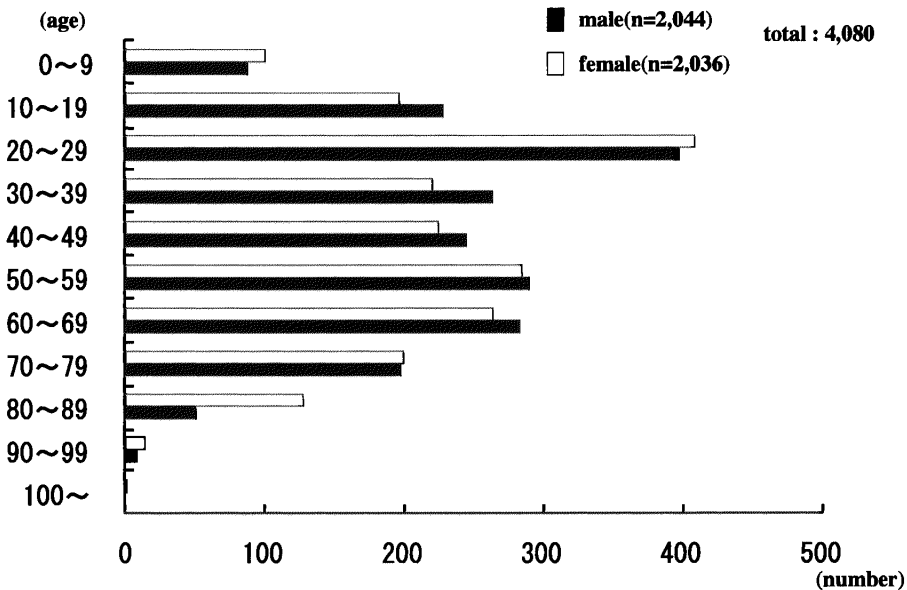


Fig. 1. Number of patients according to age and sex

年齢と疾患別においては39歳以下では口腔外科的疾患の方が一般歯科的疾患よりも多く、特に20歳代においては口腔外科的疾患が557例で一般歯科的疾患が121例であり、4.6倍多い結果を示した。また、40歳以上では一般歯科的疾患の方が口腔外科的疾患よりも多く、50歳代から70歳代では一般歯科的疾患が1,100例(72.7%)と約7割を占めた(Fig.3).

4. 地域別症例

当病院の診療圏の中で、奈良市からの新患者数が最も多く、1,291例(31.4%)であった。次いで、天理市が1,160例(28.4%)、大和郡山市が605例(14.8%)の順で多くを認め、この3市で全体の74.8%を占めていた。また、磯城

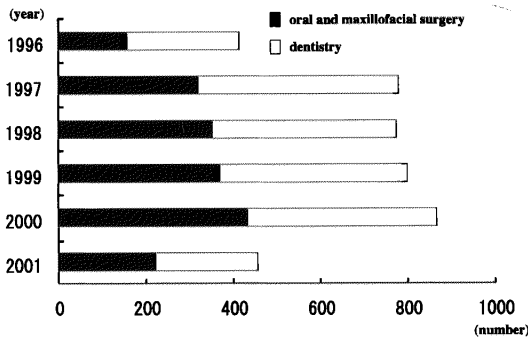


Fig. 2. Number of oral and maxillofacial surgery and dentistry according to years.

郡と山辺郡はそれぞれ218例(5.3%)と198例(4.8%)認め、他の県内患者数は428例(10.5%)で、県外の患者数は180例(4.4%)であった(Fig.4).

次に紹介患者数については、総紹介患者数は1,397例(34.2%)であった。そのうち一般歯科的疾患が423例(31.3%)、口腔外科的疾患が974(69.7%)であった。口腔外科的疾患においては、開業歯科医院からのものが519例(28.1%)、他病院からのものが215例(11.6%)、院内他科からのものが240例(13.0%)であった。次に、一般歯科的疾患では開業歯科医院からのものが48例(2.1%)、他病院からのものが36例(1.6%)、院内他科からのものが339例(15.2%)であった(Fig.5).

5. 有病者(全身的合併症を有する者)症例

総一般歯科的疾患症例2,236例のうち全身的疾患を合併するいわゆる有病者症例は855例(38.2%)に認め、年齢別に見ると、40歳未満では1%未満の割合であったが、40、50歳代では30.2%で、60歳以上では63.5%であり、高齢者になるに従って増加する傾向を示した(Fig.6).

年度別に合併症を有しない者の一般歯科治療と有病者の歯科治療を比べると、有病者の割合は、1996年は5割程度であったものの、年々増加傾向にあり、2000年、2001年は8割以上を占めていた(Fig.7).

全新患者4,080症例のうち有病者は1,118症例(27.4%)に認められているが、その有病者の疾患別割合については、高血圧症が36.9%で最も多く、次いで心疾

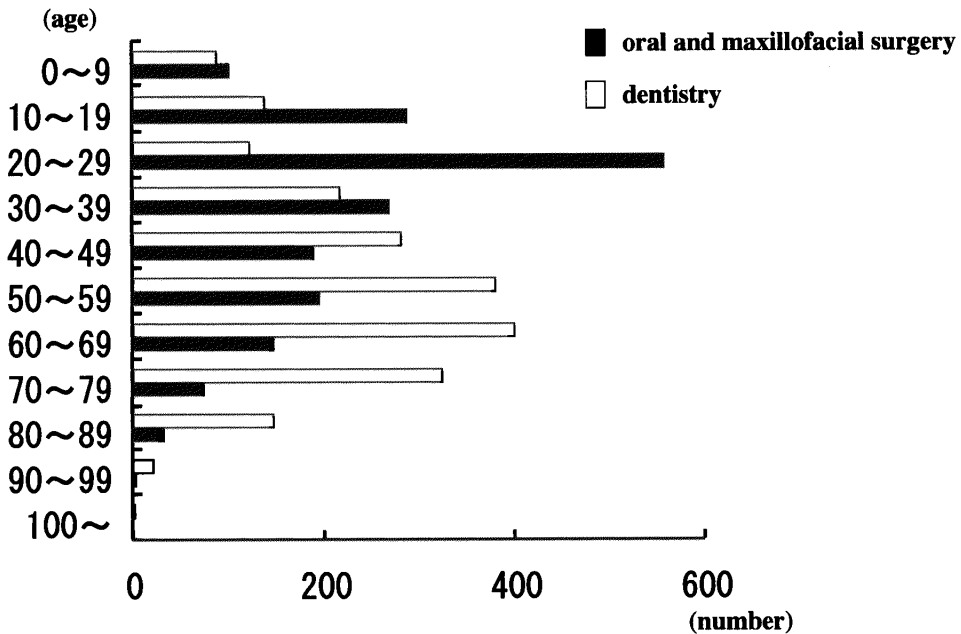


Fig. 3. Number of oral and maxillofacial surgery and dentistry according to ages.

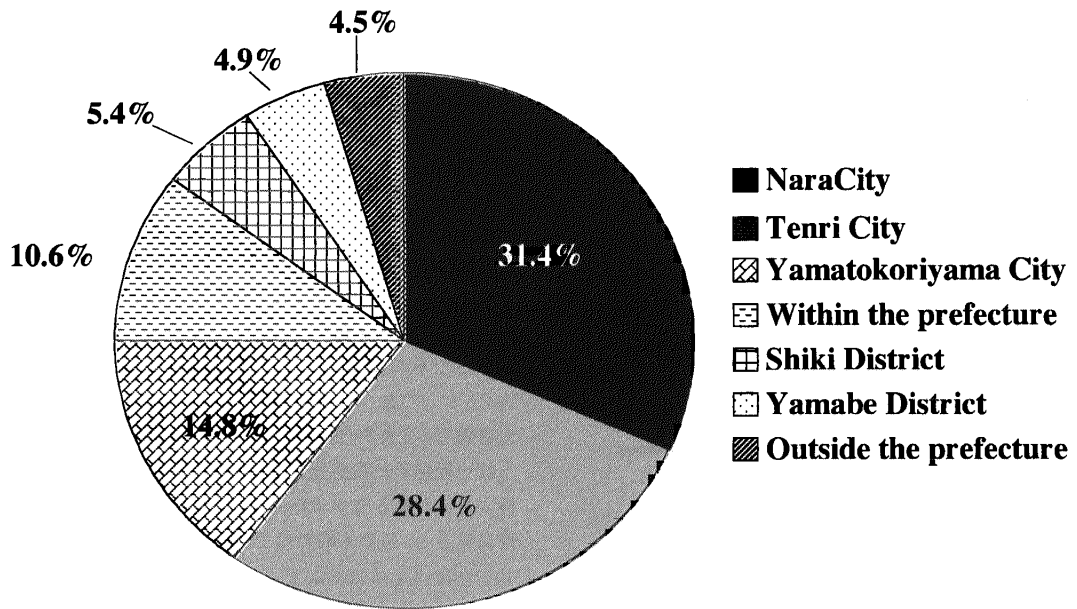


Fig. 4. Number of patients according to region.

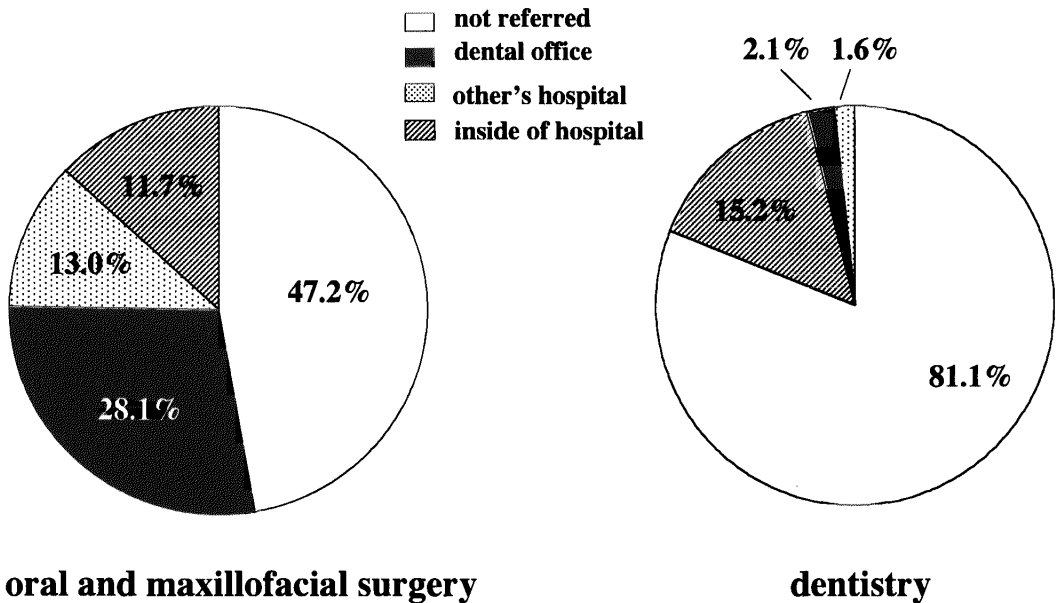


Fig. 5. Introduction rate of oral and maxillofacial surgery and dentistry patients.

患が14.9%，脳疾患が12.0%，糖尿病が11.7%，感染症が9.8%，肝疾患が5.1%，腎疾患が3.5%，その他が6.1%の順であった (Fig.8).

6. 口腔外科的疾患について

1) 年度別手術症例

外来小手術と入院手術の各々の総数は967例と272例であった。外来小手術は年々増加する傾向を示し、特に1999年以降は急激に増加している。2001年では6か月間

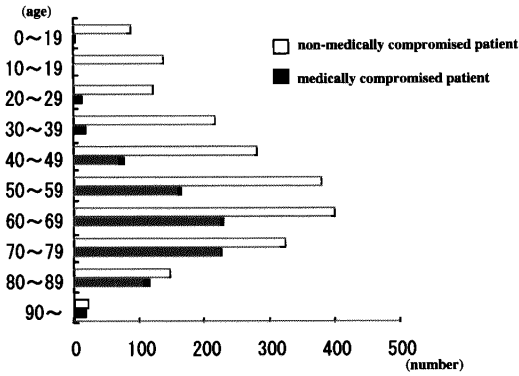


Fig. 6. Number of Dental treatment for medically compromised patient and non-medically compromised patient according to ages.

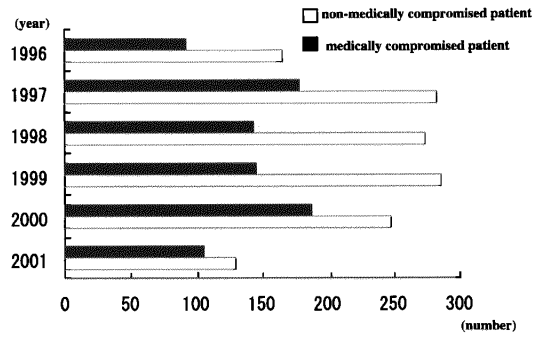


Fig. 7. Number of Dental treatment for medically compromised patient and non-medically compromised patient according to years.

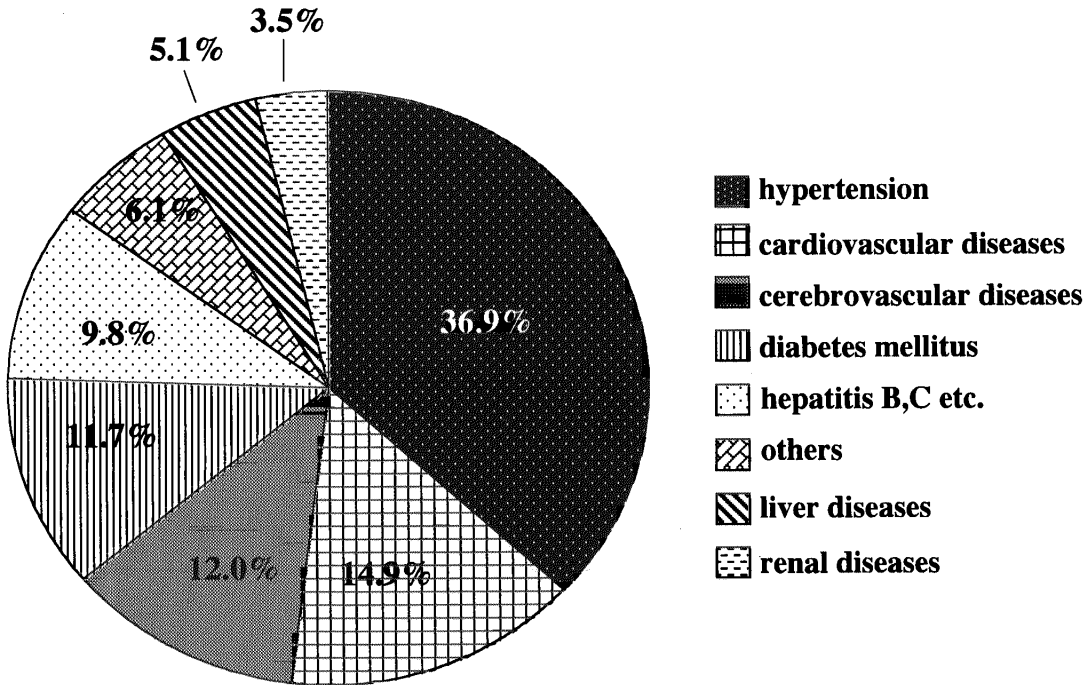


Fig. 8. Medically compromised patient rate.

で203例と前年度に相当する症例数を認めた。また、入院症例についても、年間50例前後で推移しているが、2001年は半年で40例と増加している (Fig.9)。

2) 年度別外来小手術症例

残根や歯周病に伴う抜歯、歯肉膿瘍等における切開排膿処置を含まないいわゆる外来小手術は967例であった。その内訳は、埋伏智歯および過剰歯抜歯が635例と最も

多く、ついで軟組織裂傷の縫合術、歯牙脱臼の整復固定術、歯槽骨骨折および下顎骨骨折の非観血的整復固定術を合わせた外傷疾患が156例と続き、嚢胞および粘液嚢胞摘出術を合わせた嚢胞性疾患が136例であった (Table 1)。

3) 疾患別入院手術症例

入院手術症例は272例であった。そのうち外傷疾患が

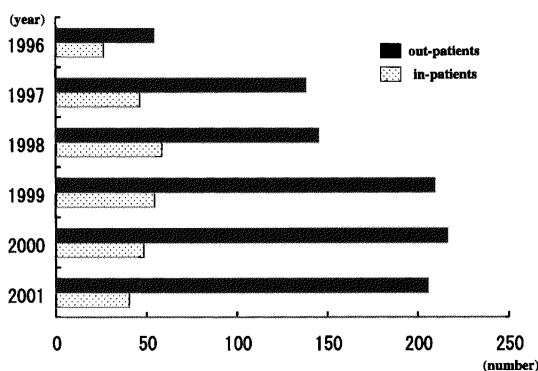


Fig. 9. Number of out-patients and in-patients for operation according to years.

182例と最も多く、その内訳は観血的整復固定術が113例と60%以上を占め最も多く、プレート除去術が61例、歯牙軟組織外傷の縫合術が8例であった。ついでインプラント埋入術が34例、顎骨嚢胞摘出術24例、腫瘍摘出術17例の順であった(Fig.10)。

4) 年度別顎顔面骨骨折症例

入院手術症例のうち、顎顔面骨折の頻度が最も多く、その年度別推移については、おおよそ年間20例前後で推移し、2001年は6か月間で15例認め、増加傾向を示していた。その中でも下顎骨骨折が最も多く68例認め、次いで頬骨骨折が23例、また2つ以上の骨折が合併した顎

顔面多発骨折は13例であった(Fig.11)。

考 察

高井病院歯科口腔外科は、1996年7月17日に診療を開始し、2002年12月で6年5か月が経過した。今回我々は、患者集計を確実に言い得た開設後5年間に当科を受診した新患者4,080例の実態を把握することを目的に臨床的観察を行った。

性別では男性2,044例(50.1%)、女性2,036例(49.9%)で男女比は1:1であった。これは他の病院歯科口腔外科施設の報告と比べると、日鋼記念病院歯科口腔外科<sup>1)</sup>の男女比1:1.2、村上総合病院歯科口腔外科<sup>2)</sup>の男女比1:1.25とほぼ一致する結果であった。

年齢別では、20歳代が805例(19.7%)と最も多く、次いで50歳代が573例(14.0%)であった。このことは、口腔外科的疾患が、20歳代に最も多いことによるものと考えられ、その理由として埋伏智歯や顎関節症、交通事故に起因する顎顔面外傷の新患者が多かったことによると思われた。また、50歳代が多い理由としては、一般歯科疾患が50、60歳代に多く、歯周疾患などの一般歯科疾患が多く認められたことによるものと考えられた。次に、30、40歳代において口腔外科的疾患と一般歯科疾患数に逆転が観られている。これは、40歳以上の新患者においては、埋伏智歯や顎関節症、顎顔面外傷と言った口腔外科的疾患よりも歯周疾患やそれに伴う喪失歯

Table 1. Number of out-patients according to diseases

	Impacted teeth of third molar	Supernumerary Teeth	cyst	muscle	Laceration of soft tissue	Luxation tooth	Alveolar fracture	Mandible fracture	biopsy	Tumors	others	total
1996	25	3	4	1	9	1	1	4	3	1	2	54
1997	89	2	10	4	16	3	4	3	3	3	1	138
1998	95	0	7	7	16	6	3	7	1	1	2	145
1999	137	2	20	10	12	10	6	1	5	5	1	209
2000	147	1	23	15	6	7	2	5	6	3	1	216
2001	130	4	31	4	9	15	7	3	2	0	0	205
total	623	12	95	41	68	42	23	23	20	13	7	967

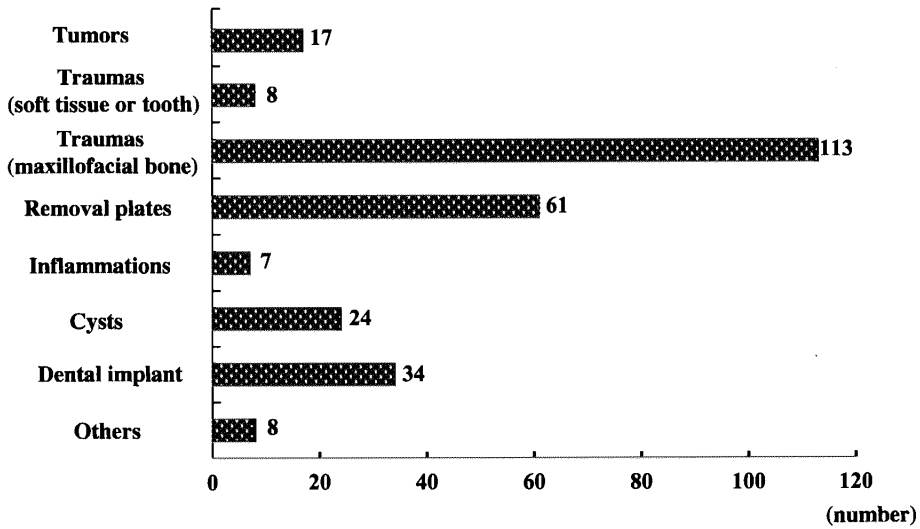


Fig. 10. Number of in-patients according to diseases.

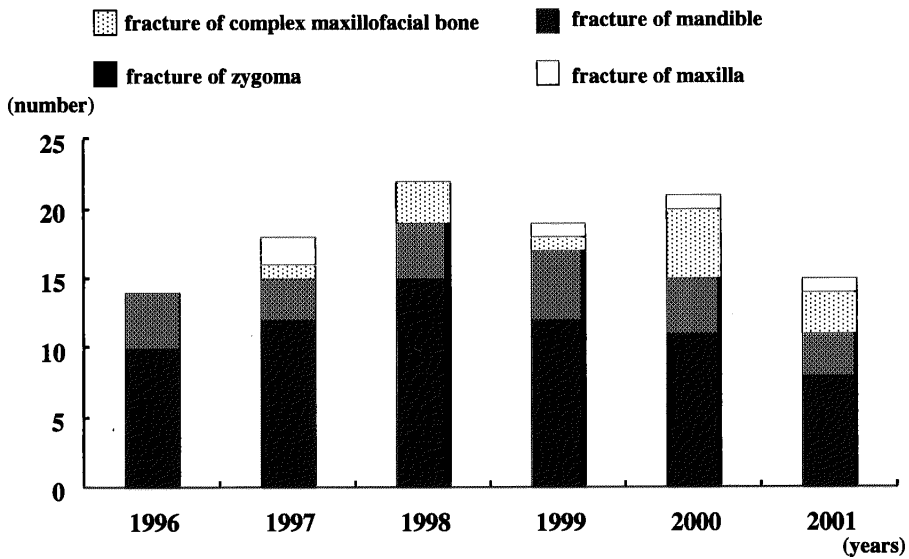


Fig. 11. Number of fracture patients according to years.

の補綴治療等の一般歯科的疾患が多いことによるものと思われた。

5年間の総新患者数は4,080例で、年間平均新患者数は816例であり、年平均2.75%の増加率であった。新患者数に関する報告を調べてみると、大垣市民病院<sup>3)</sup>、市立島田市民病院<sup>4)</sup>のように年間3,000例を越す施設の報告もあるが、佐賀医科大学<sup>5)</sup>723例、兵庫県立成人病センター<sup>6)</sup>の645例と1,000例以下の施設も見られた。また、高井病院とほぼ同規模の施設の報告をみると、日鋼

記念病院歯科口腔外科<sup>1)</sup>は1,422例で、村上総合病院歯科口腔外科<sup>2)</sup>は528例であった。当病院は、大垣市民病院<sup>3)</sup>、市立島田市民病院<sup>4)</sup>には及ばないものの佐賀医科大学<sup>5)</sup>、兵庫県立成人病センター<sup>6)</sup>と同程度の新患者数であった。

新患者の疾患別においては、口腔外科的疾患が年平均45.2%を占めているが、年々増加傾向にある。口腔外科診療を主体とする他施設の報告<sup>1,2,3,4,6)</sup>と比較すると、兵庫県立成人病センター<sup>6)</sup>の58.5%、日鋼記念病院<sup>1)</sup>の

60.0%よりは低いが、村上総合病院<sup>2)</sup>の44.3%とはほぼ同程度であり、大垣市民病院<sup>3)</sup>の37.0%、市立島田市民病院<sup>5)</sup>の27.0%より高い結果となっていた。

地域別患者数においては、当病院は天理市の北部に位置し、奈良市と隣接するために、天理市よりも奈良市からの新患者数が多かったものと考えられ、天理市と隣接する大和郡山市と奈良市で全体の74.8%を占めていた。南部に隣接する桜井市については、奈良県立医科大学附属病院口腔外科<sup>7)</sup>が近位にあるため少ないのではないかと推察された。また、県外患者180例(4.4%)については、大阪府、三重県、愛知県などからが多く、これは名阪国道と西名阪自動車道に隣接しているため、主に交通事故による外傷患者であると考えられた。

紹介患者数については、患者総数は1,397例(34.2%)であるが、そのうち口腔外科の疾患が974例と約7割を占めていた。これは、当病院は一般歯科よりも口腔外科を主に取り扱う専門施設であることが、地域の医療機関に浸透した結果ではないかと考えられた。また、口腔外科の疾患における紹介率は52.8%で、一般歯科の疾患の紹介率は18.9%であった。来院経路の内訳は、口腔外科的疾患においては、開業歯科医院が最も多く、その疾患内容は埋伏智歯の抜歯依頼が多く、また院内他科紹介は交通事故等の外傷に起因するものが多く、他病院から紹介については外傷および顎関節症、舌痛症が主なものであった。一般歯科の疾患においては、他院からの紹介率は低かったものの、院内他科からの紹介が最も多く、入院患者の保存、補綴治療が主であり、当科は病院歯科としての役割も担っていることが改めて示されるものであった。紹介なしで来院した患者の割合が一般歯科の疾患の方に多かった理由として、当科がその地域に密着した開業歯科医院としての側面も持ち合わせていることが考えられ、当科に対する幅広いニーズが期待されているものと考えられる。紹介患者の比率に関する他施設の報告では、奈良県立医科大学<sup>7)</sup>が72.5%で最も高く、以下兵庫県立成人病センター<sup>8)</sup>が59.0%、日鋼記念病院<sup>1)</sup>が37.0%、国立栃木病院<sup>9)</sup>が28.0%、大垣市民病院<sup>3)</sup>が17.5%となっていた。川口ら<sup>9)</sup>は、総合病院歯科口腔外科にとって、病院内外からの紹介および依頼は、院内または地域における存在意義や期待度を表すものとして重要であると述べている。当院においても、院外紹介の多くは開業歯科または他病院からの紹介であった。また、院内他科からの紹介は、外傷に伴う口腔外科の疾患と全身的合併症を有している歯科治療であった。このようなことから、各科との連携が取りやすく、入院管理および高度の医学的管理下での処置が可能である総合病院歯科口腔外科はますます

すその必要性が高くなっていくものと考えられる。

いわゆる有病者については、1,118例(27.4%)に認められたが、これは患者の間診による自己申告および院内カルテにより算出したため、実際にはもう少し多いものと思われる。既報告では、いわゆる有病者率は、麻柄ら<sup>10)</sup>は34.9%、小沢ら<sup>11)</sup>は36.4%と報告しており、当科は、若干低いようであった。年齢別では、やはり60歳以上に有病者が6割以上を占めていた。これは、生活習慣の変化と高齢化が急速に進行したためと推測される。一般歯科の疾患2,236例のうち有病者の歯科治療が855例(38.2%)に占め、年々増加傾向にあった。有病者の疾患別割合では、生活習慣病に起因すると思われる高血圧症、心疾患、脳疾患、糖尿病が合わせて75.5%と7割以上を占めていた。また、肝炎等も約1割を占め、頻度の高い合併症と思われ、院内における二次感染の予防が重要であると考えられる。当科は、開設当初より院内感染予防の重要性から、歯科治療時における診療器具、歯科用エアタービン、根管治療器具など、患者一人につき1セットで治療を施行し、感染予防につとめている。

口腔外科の疾患については、主に手術症例の検討を行ったが、それ以外には、顎関節症429例、舌痛症、口腔乾燥症101例、歯性上顎洞炎35例、顎顔面と歯牙打撲を合わせた外傷30例、骨髄炎5例、また蜂窩織炎などの重症感染症の入院症例5例を認め、総数1,844例であった。顎関節症の症例が年々増加傾向にあり、口腔内科的な舌痛症、口腔乾燥症も高齢化社会に向い増加する傾向であった。

年度別手術症例数については、外来小手術数および入院手術数は年々増加している。年度別外来小手術の症例については、当院は救急指定病院であるためか軟組織裂傷の縫合術が68例、歯牙脱臼の整復固定術が42例、歯槽骨骨折および下顎骨骨折が非観血的固定術23例と外傷の患者の占める割合が14.0%と他施設の報告<sup>12)</sup>と比べるとやや多かった。

入院手術症例については、5年間における総入院患者数は208症例で、年平均41.6症例で、年平均入院率は5.0%であった。他施設の年平均入院率報告<sup>1,2,3,4,6,8)</sup>をみると4.0%~8.0%前後の報告が多く、当科もほぼ同程度であった。また、手術症例では、外傷性疾患に関係した顎顔面骨折の観血的整復固定術が66.9%を占めた。腫瘍性疾患は主に耳下腺、顎下腺の良性腫瘍が多く、悪性腫瘍は甲状腺癌の頸部リンパ節転移と耳下腺の腺房細胞癌の2例に認められた。他施設の報告<sup>1,2,3,5,6,8)</sup>をみると腫瘍性疾患は全患者数に対し、平均16.0%前後を占める報告が多いが、当科は6.2%と非常に低い値であった。また、開設1



年後より外傷や歯周病の喪失歯に対して歯科インプラント治療を開始し34例に行っている。

年度別顎顔面骨折手術症例については、年平均20例前後で推移しており、骨折の部位別頻度は、奈良県立医科大学口腔外科の報告<sup>12)</sup>と同様に下顎骨骨折の頻度が最も多く、全体の60.2%を占めていた。しかし、1998年を境に自動車による交通事故を原因とする骨折が急激に減少しており、これは、1997年ごろより家用自動車にエアバックが標準装備され、シートベルトの着用率が上昇したことによるものと考えられた。

最後に、本邦における歯科医療の一つの特徴として個人開業医が主体となってきたことが挙げられる。今後もこの傾向は続いて行くものと思われる<sup>13)</sup>。しかし、一方で病院歯科口腔外科の役割、機能に関する報告<sup>12)</sup>にもみられるように、今後の病院歯科口腔外科の果たすべき役割としては、一次医療を主に担当する地元開業医と医療連携システムを持ち、推し進めるとともに地域の中核的な立場に立ち、大学病院との連携を保ちながらより高度な臨床と卒後研修が受けられるシステムづくりが必要であろうと思われる。

## ま と め

高井病院歯科口腔外科の開設から5年間の新患者について臨床統計的観察を行い、以下の結果が得られた。

1. 5年間の新患者数は4,080例で、性別では男性2,044例、女性2,036例で男女比1:1であった。年齢別では最小年齢6か月、最高年齢100歳であった。20歳代の割合が一番多かった。
2. 年度別新患者数は約780例前後で推移しているが、2000年より増加している。疾患内容別では口腔外科的疾患が45.2%で一般歯科の疾患が54.8%と若干一般歯科の疾患の方が多いが、近年は口腔外科的疾患が増加してきている。
3. 年齢別疾患別では、39歳以下においては、口腔外科的疾患の方が一般歯科の疾患よりも多く、逆に40歳以上では一般歯科の疾患の方が口腔外科的疾患よりも多かった。
4. 地域別では当病院の地理的位置より、奈良市からの患者が一番多く、天理市、大和郡山市の3市で全体の74.8%を占めた。
5. 紹介患者総数は1,397症例(34.2%)であった。そのうち一般歯科的疾患が423(31.3%)、口腔外科的疾患が974(69.7%)を占めていた。一般歯科的疾患では、院内他科からの紹介が多く、口腔外科的疾患では開業歯科からの紹介が多かった。

6. いわゆる有病者は1,118例(27.4%)認め、60歳以上では63.5%に有病者が認められた。年度別では有病者数は最近増加傾向にある。また、一般歯科の疾患中に占める有病者の割合は38.2%であった。有病者の疾患別では、高血圧症が36.9%と最も多く、次いで心疾患、糖尿病、感染症、肝疾患、腎疾患の順であった。
7. 口腔外科的疾患の手術症例については、外来小手術および入院手術は年々増加傾向である。外来小手術は埋伏智歯や過剰歯抜歯が多く、入院手術症例は外傷疾患、特に顎顔面骨折の観血的修復固定術施行症例が多く認められた。

<謝辞>

稿を終えるにあたり、当科の診療に御理解と後支援をいただいた高井病院院長高井重朗先生(奈良県立医科大学臨床教授)をはじめ各科の先生方、ならびに歯科口腔外科のスタッフの皆さんに感謝を申し上げます。

## 文 献

- 1) 三浦尚徳, 畔田 貢, 大類 晋, 江端正祐, 邊見 亨, 山際泰二, 原田浩之, 種田知格, 樋口俊幸, 由良晋也: 日鋼記念病院歯科口腔外科における最近5年間の外来患者の臨床統計的検討。北海道歯誌。16: 142-148, 1995.
- 2) 堀川恭勝, 岡田康男, 田中 彰, 武田幸彦, 小澤一嘉: 村上総合病院歯科・口腔外科における過去5年間の外来および入院患者の臨床統計的検討。歯学38(3): 771-790, 1995.
- 3) 原 康司, 落合栄樹, 佐々木成高, 村田晴彦: 大垣市民病院歯科口腔外科における過去6年7か月間の患者の臨床統計的観察(抄) 日口外誌。33: 2320, 1987.
- 4) 服部 徹, 北島 正, 内藤謙一: 市立島田市民病院における初診患者動態(抄)日口外誌 34: 2944, 1988.
- 5) 副島 涉, 田中稔夫, 古賀正章, 木原誠一郎, 溝上洋太郎, 香月 武: 佐賀医大開設後2年間における臨床統計的観察 日口外誌。31: 1457-1465, 1983.
- 6) 赤澤 登, 久我雅則, 横尾 聡, 高橋伸彰, 島田桂吉: 兵庫県立成人病センター口腔外科開設後2年間の患者の臨床統計的観察(抄)。日口外誌, 36: 1981, 1990.
- 7) 堀内克啓, 服部明伸, 吉川智也, 中橋一裕, 土田雅久, 西岡博人, 露木基勝, 浅香 信, 竹内尚則, 望月光治, 吉田育弘, 権 利文, 桐田忠昭, 植村和嘉,